

十神山



会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

〒692-0064
島根県安来市古川町534
TEL 0854-28-9988
FAX 0854-28-9393
http://www.y-hozon.com/
E-mail:admin@y-hozon.com

この度、新型コロナウイルスの影響により、安来節保存会の資格審査会、全国優勝大会、師範研修会、大師範以上研修会が中止となりました。

この影響により、集まった練習会などが行えない皆様のために、資格審査員と指導部員の合同小委員会（渡部孝夫、家元四代目 渡部お糸、矢倉哲郎、一字川 勤、松村益男、出雲啓之助、小村顯二、富田光雄）を立ち上げ、基礎テキスト及び動画を作成いたしました。

これを参考に、基礎の大切さを改めてご認識いただければ幸いです。基礎動画DVDは、各支部長に配布しておりますので、ご覧になりたい方は、所属支部長にお問い合わせください。

また、動画投稿サイト（ユーチューブ）の「安来節保存会動画チャンネル」にて、会長他の激励メッセージ、どじょうすくい体操、どじょうすくいパラパラ動画を投稿しておりますので、ぜひご覧ください。

基礎テキストと動画作成について

資格審査長 渡部 孝夫



いま、安来節保存会の行事は自粛しています。会員の皆様は、様々な不安があるとお察ししています。

安来節に挑戦し稽古をしたことは、皆さんにとって大切な経験です。経験を無駄にしないために今が大事なときです。喜びの“達成感”“交流”を感じる日は、必ず近いうちにやってきます。挑戦意欲を失わずに頑張りましょう。

安来節は、他に類例がない特徴的な民謡です。攻略は簡単ではないことは、皆様よくご存じです。この機会に今までの稽古に加え、安来節の仕組みを考えてみましょう。

参考にする「基礎テキストとそれに沿った動画」を作成しました。このテキストと動画は、安来節の構成が理解できることと、自分の技量を見直してみるのに役立ちます。技量がいい、悪いと判断するとき、つい「うまい」かどうかを考えますが、その奥の基本的な原因はあまり考えません。稽古と併用し理解すれば、この原因がわかってきます。このテキストと動画を活用して技量の改良方法を見つけ、稽古の力になることを信じています。皆様のご意見をお寄せください。

安来節の基礎

安来節の基礎について

基礎とは、安来節が出来上がる時基本になるものです。唄、絃、鼓、踊、銭太鼓それぞれの芸をつくるために最初に学ぶ技術です。これを基礎訓練と言います。基礎訓練は初歩から段階に応じて稽古を進めていきます。

基礎は、当たり前のように思えるからあまり真剣に考えません。しかし、説明をする時、簡単に出来ないのが基礎です。例えば、子どもが質問して（大きな宇宙はどうしてできた？）というようなことに驚かされます。当たり前は説明が難しいことです。でも、基礎は技術の欠点を改善する答えです。

さて、自分がやりたいことを優先していませんか。そして、指導者も仕上がりが気になり、今クリアすべき基礎を教えてください。

基礎訓練は、勉強中の人だけではありません。芸能経験が長くても常に基礎訓練で修正し、芸の達成に必要でしょう。

では、それぞれの部門について基礎を考えてみましょう。

5部門に共通する基礎「テンポとリズム」

音楽（安来節を含めて）が成立する基本は、テンポ（楽曲の速さ）です。正しいテンポは安来節の味を表現するひとつです。

次にリズム（繰り返される音律の強弱や長短）です。正しいリズムとは、正確な間をとることです。例えば、手拍子をとる時を想像してください。手が離れた上で間は取りませんね。たいたところで間をとっています。この間のとり方が大切な基本です。複雑な安来節の構成を表現できるのがこの間のとり方です。これはどの種目にもいえるタメとも言っています。

正しいテンポと、リズムが出来て初めて自分の芸を表すことが出来ます。テンポとリズムがくずれていることに気づかないことがありますので、注意しましょう。

「安来節の味は、基礎訓練から」と言ってよいでしょう。

～基礎知識を学んで上達する～

唄の基本

歌はもともと自分の気持ちを相手に伝えるために、唄ったと言われている。相手に伝える声の出し方が基本です。感情を出す唄い方などありますが、まずは声の基本例は次の通りです。

1. 伝えるために無理せずに出せる声

- 高い声と低い声
- 大きな声と小さな声

2. 相手に伝わる声

- 響きのある声

3. 伝わる唄い方

- 語句がはっきりしている発音（言葉が流れず、キレの良い発音）
- 歌詞の意味が伝わる発音（句と節の意味が解る発音）

この基本が出来ているか確認してみましょう。伝わりにくい唄の例は、「節を優先して句又は節を不自然に切り離す」、「声が小さい」、「声が高すぎてキンキンし歌詞が聞き取れない」、「もぐもぐしてははっきりしない」などの唄い方です。

4. 呼吸法

言葉がはっきり言える。一節が息を継がずに唄える。などが出来るのは呼吸の仕方です。

腹式呼吸は、例えば「ア」を長く伸ばして息を使い切ったあとに、腹筋に力を入れて吸う息の吸い方です。息を吐くときも腹筋に力を入れて吐きます。腹式呼吸に慣れるまで訓練が必要です。

仰向けで寝た状態は腹式ですので、この形で唄うことを試してください。この実験体験で得たコツは覚えてください。



三味線の基本

三味線の形は、絃の響きを最大に伝えるためにできた形です。持ちやすい、構えやすいことを優先に作られていませんから、扱いはたいへん厄介です。バチの形も音を出しやすいことが優先されていますから、簡単には持てません。これをクリアすることが三味線の演奏に必要な基本になります。

1. 構 え

- 弾きやすい姿勢は、背筋を伸ばす。
- ひざにのせる胴の位置は、右のもものほぼ中央にのせる。
- 胴を安定させる右腕は、少しひじを伸ばして押さえる。
- 胴は20度ぐらい手前に傾け、ももの右へ三分の一程度ずらして、海老尾（天神）が左耳あたりになるように傾ける。

2. バチの持ち方と振り方

- バチのにぎりを薬指と小指の間に挟む。親指はバチ先から2～3センチ手前に置く。人差し指、中指、薬指はバチの裏側に置く。どの指も余分な力を抜いて持ち、演奏の最後まで同じ力が続くようにする。
- 振り方は、バチが胴の一定の場所に当たるように、力を抜いて振る。
- バチ手の小指は振り下ろしたとき、駒の前の位置に納まり、駒を超えないようにする。手首の角度に注意する。

3. 左手の構え方

- 左手は、小指を除く3本の指が無理なく糸を押さえる形をとります。手の甲を棹より前に出して、3本の指が糸の真上から押さえることが出来る形をとる。
- ⑥から⑨のツボに移動するときなどは、手首を返して正確なツボを押さえる動きをする。
- 中指と薬指が正しくツボを押さえる形にするために、人差し指は「く」の字にして押さえる。
- 人差し指は、3の糸にいるときは離さないこと。人差し指が離れると、伸びのある音、タメをとるなどに影響する。

鼓の基本

1. 組み立て

(小鼓)

- 胴が皮になじむように、調べのバランスを調整する。
- 横調べの締め具合は、手のにぎり具合に合わせて調節する。
- 当日の湿度の程度を感じて準備する。

(大鼓)

- 大鼓は、高く乾いた音を出すためにきつく縦横の調べを締める。

2. 構え方

- 大鼓は左ひざに置き、左ひじで縦調べの間を押さえる。
- 左足のつま先は、右足のアキレス腱を挟み固定する。背筋を伸ばすため、挟む位置を調節する。
- 小鼓は右肩の前部に軽く当てる。持った左手は迎え打ち（左手が打ち手に近よる）しないように固定する。
- 二つの鼓を構え、両膝はひろげないように注意する。顔は正面を向く。

(現在の鼓二丁構えは、美しい舞台姿として考えられたものです)

3. 演奏法

- 皮に当たる手のひらは、あまりひろげないで自然な形でたたく。隣り合った指の音のずれを防ぐため、あまり手のひらはひろげない。
- 打ち手の手首に余分な力が入らないよう、腕全体で振ることを意識する。
- 小鼓の指が当たる部分は中央付近。
- 小鼓の音色は、指が当たると横調べを緩め、再び締める操作をする。この際、緩める、締めるタイミングは音の変化を慎重に聞き取り操作する。(余韻の出し方)
- 大鼓は、たたく場所によって違う音の変化を知っておく。出る音の種類は中央から胴に近くなるに従って甲高くなる。
- 三味線と競合し弾みの良いリズムを演出する。弾んだ気持ちで演奏するとよい。
- 鼓の役割を理解し、演奏は舞台全体の勢いをつける。

- 鼓の掛け声は重要です。全体を引き締め迫力を演出する。三味線と掛け声は重なっても無いよりあった方が良い。掛け声は、平素の稽古が大切です。稽古していなければ本番も声は出ません。

踊の基本

1. 野良着の着方など

- どじょう掬いをする場所は、「前の小川……」や田んぼでどじょうが身を隠す場所があるところです。衣装の野良着は、あまりきちんと着ていません。作業がしやすいようにゆるく着ています。または、作業で着崩れしています。見苦しくない程度に着方を工夫しましょう。
- 股引は、ひざが出ないようにする。短いと水面を泳ぐヒルに食われやすい。
- 鼻の一文銭
諸説ありますが、一説にどじょう捕りを生業にしていた百姓、浜佐陀村の竹内由助が面白く踊った。それを真似て一文銭を付けた踊りとなった。踊唄に残る「わしの生まれは、浜佐陀生まれ……」。

2. 歩き方

- どじょうがいる場所を歩くとき、不用意に歩けばぬかるみに足を取られてしりもちをつく。発案者はこれをよく知っているので慎重に足を運び、腰を動かし重心移動をして歩いた。踊は平らな舞台でも、ひざ、腰を曲げリズムに合わせてそれを表現している。
- 前項の動作を早くして、リズムに乗ることがポイント。
- 動作（所作）は、足と腰のリズムのとり方を身に付ける。この稽古が基本になる。

3. 所作

- 滑稽な形を見せるパントマイムです。その所作に人を引き付ける面白さと間を工夫する。
- 例示はあるが決められた所作はないので、習った手順はきちんと覚えて、踊の途中でリズムが止まらないようにする。各人が原風景の表現を工夫する。
- 稽古不足があると、手順が不安定で動作の間が悪く迫力がない。

銭太鼓の基本

銭太鼓とは、銭を仕込んだ33センチほどの竹筒に、房を両方に取り付けたものを銭太鼓といいます。リズムを取って銭を鳴らし、所作を見せる芸です。

1. 回 す

- 銭太鼓を回す難しい芸で、持ち上げて回す悪い形より、押し出す力で重心を計算した回し方を稽古する。
- 意識しなくても回せるように、手慣れておく。

2. 所 作

- 所作は、姿勢を正し大きく見せる。
- 腕は、振り、伸ばし、角度の形によって所作の大きさは変わる。そして、幅のある演技をする。
- 顔は前向きで笑顔の演技は、自信に満ちて見る人を引き付ける。下向きは、訴える力が弱い。

3. キ レ

- 手順を舞台で考えるのは、迫力がない。手順は十分慣れて身に付けておく。
- 積極的に三味線のリズムに乗って勢いをつけていく。
- 銭太鼓の切り返し、突き、振り下ろしなどの所作にキレがある。メリハリがあるか無いかは要点です。
- 銭太鼓が落ちる原因は、リズムが悪いこと、所作が未熟なこと。

4. 余 裕

- 見る人を引き付け、喜んでいただくのは余裕のある演技です。
- 余裕のある演技は掛け声が出せる。
- 掛け声は演技のひとつです。自分を奮い立たせ、舞台を引き締める効果がある。掛け声の稽古は平素が肝心で、本番だけでは掛け声は出来ない。
- 自信がない演技は、視線があいまいです。正面に視線を向けて、見せたい演技をアピールする。